

『 生ゴミ減量実験モニター調査 』の結果について

1 実施目的

燃やせるごみの中で大きな割合を占める生ゴミに着目し、家庭内で生ゴミの水切り実践をいただき、水切り効果のデータを収集し、排出抑制効果を検証する。あわせて、生ゴミの減量意識の高揚を図るための普及啓発用の検討資料とするために実施する。

2 実施概要

(1) 内 容

生ゴミの水切りの協力世帯（水切りモニター）に水切りグッズ等の物品を配布し、水切り前後の生ゴミの重さを計量していただく。

(2) 期 間

平成 28 年 10 月 1 日（土）から平成 28 年 10 月 31 日（月）まで
※協力世帯は実施期間の中で可能な日に計量を実施する。

(3) モニター協力応募世帯

忠岡町に住所を有する 48 世帯

うち 調査票提出 43 世帯（回収率 89.5%）
アンケート提出 44 世帯（回収率 91.6%）

(4) 配布物資

- ・水切りグッズ 1 個
- ・水切りネット 1 袋（30 枚入）
- ・キッチンスケール（受け皿含む）1 個
- ・クリアファイル 1 部
- ・調査票 1 部
- ・アンケート用紙 1 部

3 実施結果

モニター数	43 世帯 (114 人)
水切り前総量	264,603 グラム
水切り後総量	237,557 グラム
水切り総量	27,046 グラム

4 アンケート結果

(1) 年代別人数

年 代	人 数	割 合
未就学児	4 人	3.5%
小・中学生	6 人	5.3%
上記以外の10歳代	7 人	6.1%
20歳代	10 人	8.8%
30歳代	7 人	6.1%
40歳代	13 人	11.4%
50歳代	19 人	16.7%
60歳代	20 人	17.5%
70歳代以上	28 人	24.6%
合 計	114 人	—

(2) モニター参加以前、生ゴミの水切りに取り組んでいましたか？

選 択 肢	回答数	割 合
取り組んでいた	24 世帯	54.6%
取り組んでいなかった	20 世帯	45.4%
合 計	44 世帯	—

※「取り組んでいた」と回答があつてその方法については（自由記載）

- ・ ネットを手で搾る。
- ・ 半日から1日、ネットのまま置いてから袋に入れる。
- ・ 天日干し。
- ・ とんとんして水切り。
- ・ 新聞紙に水分を吸収させる。
- ・ 野菜ごみは容器に入れ乾燥させ庭に埋める。
- ・ 畑に肥料として土に埋め込み、ごみ袋に入れる時は穴をあけて流す。
- ・ 生ゴミ三角コーナーは水の掛からないところに置き、生ゴミは乾燥機にかける。

(3) 水切り器は使いやすかったですか？

選 択 肢	回答数	割 合
使いやすい	23 世帯	52.3%
使いにくい	21 世帯	47.7%
合 計	44 世帯	—

※「使いにくい」と回答があつたのはどのような点ですか（自由記載）

- ・ 全体に力が入らないため。
- ・ 押さえるところが狭く、ずれてしまう。

- ・少量だとひっかからなかった（水切り器の切れ目）
- ・水切り器が小さい。
- ・水切り器が固くて力が入らない。
- ・水を切るのに力があるので引っ張るとネットが破れる。

(4) 生ゴミの水切りをする手間はどのように感じましたか？

選択肢	回答数	割合
特に手間は感じなかった。	23 世帯	52.3%
多少手間に感じた。	19 世帯	43.2%
大変手間に感じた。	2 世帯	4.5%
合計	44 世帯	—

(5) 生ゴミの水切りをして良かった点をお知らせください。（複数回答可）

選択肢	回答数
ごみが軽くなった	24 世帯
ごみの量が減った	18 世帯
生ゴミの臭いが少なくなった	5 世帯
小バエなどの虫が減った	1 世帯
ごみの減量に関心を持った	22 世帯
なし	2 世帯
その他（自由意見を記入）	3 世帯

※その他（自由意見）には下記のような意見がありました。

- ・農園で野菜を作っている者にとっては生ゴミは欠かせない肥料です。また、庭先で花を育てていくにもボカシ肥料と混ぜて土作りにつかえます。趣味として続けていきたい。
- ・感覚ではなく数値としてあらわれたので実感できた。啓発するのに説得力がある。
- ・今まで家庭で黙々と水切りをやっていてむなしさを感じていましたが、今回モニターに参加して情報の共有ができ心の安定、充実につながりました。

(6) 水切りによる生ゴミの減量効果についてどのように感じましたか。

選択肢	回答数	割合
かなりある	12 世帯	27.3%
少しある	26 世帯	59.1%
変わらない	6 世帯	13.6%
ほとんどない	0 世帯	0%
まったくない	0 世帯	0%
合計	44 世帯	—

(7) 今後も生ゴミの水切りを継続しますか。

選択肢	回答数	割合
継続する	29 世帯	65.9%
どちらともいえない	13 世帯	29.6%
継続しない	2 世帯	4.5%
合計	44 世帯	—

継続していくという意見の理由として（※原文のまま記載しています）

- ・水切りをしっかりとしないと生ゴミの臭いで部屋の中が臭くなる。
- ・生ゴミが臭うとゴミの日にネコやカラスに荒らされる心配もある。
- ・水切りをしてゴミの減量に取り組みたいと思う。
- ・ゴミが軽くなるし、量も減る。
- ・継続する方が町全体としては相当減るので良いと思う。
- ・住民説明会に参加したときにゴミの処理に手間がかかることや焼却炉に負担がかかる事等を知ったので少しでも協力したいと思ったから。
- ・ゴミ出しの時、便利だから。
- ・少しでもゴミを出すとき軽くなっているので継続していきたい。
- ・CO2を減らすため。
- ・水切り効果をしたから。エコ活動をしているので、溜まったゴミをEM菌入りのボカシと混ぜふたつきバケツに入れ発酵を促す。水分が少なくて土中に埋めても腐敗臭が心配無いようだから。
- ・水切り器をいただいたので使わないともったいない。
- ・少しでもエコな生活が出来れば良いと思っているので続けたい。又、特に難しいことでもないため今後習慣化できると思う。
- ・以前からしていたから。
- ・エコになる。ゴミの軽減になる。
- ・生ゴミの水分量が意外に多く少しずつでも1ヶ月すれば相当量になる。1人より2人、2人より5人と少しでも沢山の人が関心を持ち水切りをすればゴミの減量は効果的だと思う。
- ・ゴミの水分が減れば焼却時に違いが出るのではと思います。排気ガスなども心配なので。
- ・水分量が減るというだけでなく、ここはまだ食べられるとかゴミになるから適量を買おうとか、生ゴミの全体量に関わった。そもそもゴミってという意識から考えさせられた。夏休みの子どもにさせたい。
- ・グラム数をまのあたりにするので、しっかり水切りすべきだなと思いました。今後も測り器を使って水切りをしていきたいと思いました。
- ・レインボーエコクラブに取り組んで10年になります。家庭で出る生ゴミを減らすのが目的なので、何の抵抗もなく続いています。ただ計量したりしませんが、お茶葉の残りかすは1週間まとめて天気のいい日に天日干しします。そして、ボカシ肥料と混ぜ他の残飯と一緒に畑に埋めます。我が家では生ゴミはほとんど出ません。

どちらともいえないという意見の理由として（※原文のまま記載しています）

- ・もともと含んだ生ゴミ量がすくないので、あまり水切りをする目的がない。ただし、時に水分が多い日もあるので、その時は水切りをしたいと思う。
- ・少し手間がかかるので急いでいる時は出来ない。

継続しないという意見の理由として（※原文のまま記載しています）

- ・手間であるから。
- ・生ゴミの種類によっては全く水の切れない物があり、肉や水に濡れていない野菜等は水切りをしても何の効果もなく、生ゴミを水に濡らさなければ、水分で重くなる可能性も少なくなるから。

(8) 生ゴミ水切り器の調査前後で意識が変わったと思いますか

選択肢	回答数	割合
思う	39 世帯	88.6%
思わない	5 世帯	11.4%
合計	44 世帯	—

(9) 生ゴミの水切りをした感想をご自由にご記入ください。（※原文のまま記載しています。）

- ・水切りは少し手間がかかるけれど、皆各家庭が水切りをすると生ゴミの量がだいぶ減っていくと思う。
- ・野菜の芯や分厚い皮があると水切りしにくい。水切りネットは目が細かいのでゴミがコーナーにこぼれず使いやすかった。コーナーに流さず直接ゴミ箱に捨てたほうが、水分を含まずに済んだ。
- ・生ゴミにはかなりの水分があるという事がわかりました。
- ・使いづらかった。ゴミを中に通して引っ張るだけでは水は十分に切れず、シンクに強く押しつけないと水はきれない。重いと処理費用が多くなるという事は考えもしませんでした。出来るだけ水分を含まないように気をつけて生ゴミを出すようにしたいと思います。
- ・面倒くさかった。
- ・計量することでどれだけ減っているかと思ったが、普段から半日から一日、水を落としているので案外、水分量が少なかったなので、これからも生ゴミの水切りを続けていこうと思います。
- ・人数が少ないと生ゴミも少ないが、多い家庭では相当減量になると思う。ただ、多いと搾り難いので搾り方を考慮しないと。
- ・今まで水切りはしてきたつもりでしたが、意識してみると食材を結構無駄にしてもったいないことをしていることに気づけたのと、ゴミ袋の臭いが少なくなったので今後も続けたい。
- ・以前から何か工夫しなくてはと考えていたが、やはりしっかり搾って捨てるようにします。
- ・家族2人なので生ゴミも少ない方だと思いますが、水切りをして少しでもゴミが軽くなって

いるので良かったと思う。これからも続けていきたい。

- ・水切りをしてゴミ袋の水のたまりがないのも気持ちのいいものですね。
- ・バナナ・りんご・みかん・ジャガイモ・にんじん・大根の皮は水切りしないものの方が多く、食べ残しから出る残飯あるいは料理中洗った葉ものの残飯だけでは、あまり水分量がでなかったです。
- ・多少手間に思うが、町全体ではかなりの量が減ると思う。
- ・水切りをしたことで水分量も減らせましたし、その結果ゴミ袋が破れても臭いが広がることもありませんでした。今まで心掛けていたつもりでしたが、もっと減らせることが出来るんだなあと感じました。
- ・より多くの家庭で水切りを行えばゴミの減量→燃料削減→CO₂の削減につながり、もっともっと広がればオーバーですが、地球環境の悪化をやわらげられるかもしれません。天日干しは今回の水切りよりも効果はあるのですが、面倒なので今回の水切りを是非広めていただきたい。
- ・気温が高いと臭いに気を使う。コバエ取り器を置いていたり、虫のうごめくのが嫌だったが水分量減少で杞憂になればよい
- ・水切りは使いづらい。はかりをしようするのが嫌。受け皿を使用するたび消毒をするのが大変。
- ・水切りゴミ袋の使用で排水口のゴミ受けが汚れにくいのに気がつきました。1ヶ月の生ゴミの量、又余分な水分の多さにびっくりしました。
- ・元々水切りをするために食器洗いをした。すぐに捨てるのではなく、夜中、間をあけて少し乾かし、翌朝捨てるということをしていたが、それでもまだ今回しほれば水分が出てくるので、まだまだ残っていたのだなと思いました。これからも続けていこうと思います。
- ・今後も水切り器を使いたいと思います。プラと分けてゴミを出すようになってから生ゴミも減ってきていますが、生ゴミの袋のサイズが1つ少なくともよくなってきています。
- ・最初は水分のでないごみなどと分別しなくてはならず面倒くさかったけど、要領が分つてからはスムーズに分別して水切りをしてからはゴミの量も減り、全体的な総量も日を重ねたら少なくなると感じた。私は家庭菜園をしているので、殆どは畑に持って行き埋めるけれど、畑の無い人でも総量としては、減量効果の大きい生ゴミの水切りをもっと多くの人にしてもらい協力してもらったらいいと思う。(例：広報で特集記事の掲載など)
- ・野菜（特に根菜類）を多く食べますので水切りしても切れないので、我が家では生ゴミ乾燥機の効果があります。生ゴミ三角コーナーを流し台の中ではなく、水のかからないところにおくことで多少変わります。夏場はそれだけでも水分が抜けます。ご家庭の生ゴミ質によって水分を抜く方法が変わることがありますので、水切りの効果は我が家では今回あまりなかったようです。むしろ、野菜ゴミを出さない調理方法をおこなっていこうと思います。
- ・水切りをすることによってごみ焼却場への負担を減らすことができると思うが、町民1人1人が今回のような水切りをすることは大変難しいと思う。非常に面倒で手間がかかり毎日忙しい中で継続的に行うことは、よっぽど環境への意識が高くないとできないと思う。
- ・いつもごみは少なく考えているので、今回のことでそれほど意識することはないように考え

ます。

- ・ゴミを燃やしてくれる人がいるのだな。ゴミを燃やすには燃料がいるのだなと、普段目にしない事を想像できるきっかけになった。大人だからといってもそういう意味では何も知らないのではないかな。当たり前前に足を止めて考え、全員が取り組みを習慣化できればと願う。
- ・水切りした水量がかなり少ないとあらためて感じました。食事をつくる時には直接、ナイロン袋にゴミを捨てるのが多く、ネットには洗った時に出る、食べかす等だけですが、生ゴミを少しでも減らすことが出来ればと思っています。生ゴミの意識づけは大切です。
- ・日頃からのちょっとした意識づけや習慣にしていれば、少しでもゴミの量を減らせることを実感しました。参加させていただいてよかったです。良い習慣を身につけることができました。
- ・今まではなんとなく搾って捨てていただけでしたが、今回は量って数字で見ることができ、小さな積み重ねの大切さがわかりました。皆で取り組めると効果があるとおもう。

5 まとめ

☆実施結果から予測される水切りの効果

- ・ 1世帯1か月あたりの平均水切り量（水切り総量÷モニター数）
27,046グラム÷43世帯＝約629グラム

・ 町内全世帯が水切りに協力して頂けた場合

（1世帯1か月あたりの平均水切り量×12か月×全世帯数：平成28年10月1日現在）
629グラム×12か月×7,648世帯＝57,727,104グラム



約58トンの水分量を削減することが可能

【実施結果及びアンケート結果から考察】

本調査では、水切りによる生ゴミの減量効果に関する調査として、実施しましたが、生ゴミの水切りは、水切りする生ゴミの量や使用する器具のやり方によって違いがありますが、家庭ごみの約1.6%の減量効果があることがわかりました。そして、これを忠岡町にあてはめると、わずかではありますが削減効果がある取組であることがわかりました。しかしながら、今回の検証結果はあくまでも全町民が生ゴミの水切りに取り組むことによる効果を試算したものであり、実際の実施率を加味すると、極端に大きな効果は期待できないと推察されます。また、水切り器の購入費用や手間、容器の耐久性などが普及させていくための課題として挙げられます。

生ゴミの水切りは、家庭で簡単に取り組め、減量効果のある取組であることから、これを普及啓発していくことは、ごみ減量・リサイクルに対する意識を高めていく上で有効と考えられま

す。そのため、生ゴミの水切りなどの取組を足がかりに、家庭でできる3R（リデュース、リユース、リサイクル）の取組の実施率の向上へと繋げていくことが重要と考えられます。